恕菴本草記聞

壹

特1
3386

ガラス使用

31.7.19

ガラス使用

恕菴本草記聞

壹

特 1
3386

特1-3386

帝國圖書館藏

本草綱目記聞巻ノ一目録

水ノ一（天水類 扵一種）

火ノ一（凡二扵 一種）

金石ノ一（金石類 廿一種）

石ノ三（凡二扵 九種）

草ノ一（山草類 三扵一種）

草ノ三

水ノ二（地水類 三扵種）

土ノ部（凡六扵 一種）

石ノ二（玉石類 扵四種）

石ノ四（凡四扵 四種）

草ノ二

草ノ四（隰草類 五扵二種）

昭和十一・九・二〇・購入

十五行

梅欲一本作欲梅

本草綱目記聞巻之一

甲賀敬元

平安 恕庵松岡玄達考訂 門人熊谷玄随同校

江村如圭

佗說 稲若水 貝原篤信 堀元厚

水之部 一 天水類 於一種

雨水（アマミツ） 貝原歳時記說佳也

集 梅 梅雨水 周処風土記曰夏至前雨名黄梅雨沾衣服皆敗黦○陸佃埤雅曰今江湖二浙四五月間梅欲黄落則水潤土溽柱礎皆汗蒸鬱成雨故謂之梅雨故自江以南三月雨謂之迎梅五月雨謂之送梅也○貝原歳時記說佳也

黦一本作點

帝國圖書館藏

送梅 サミダレ 和書ニ 月雨ト書

霉明 芒種後逢壬為入梅小暑後逢壬為出梅〇食物本草曰夏至後逢庚為出梅、送梅（サミダレ 和俗五月雨ト書）

時雨 （二月頃田ヲ作ル時降ル雨也「シクレ」ト訓スルハ非ナリ出詩 徑）

液雨（シクレ） 潦水（ニワタミツ） 時珍隆注雨水此説ハ「ニワタ」水ナリ韓退之ノ説ノ如クナレバ「ナガ雨」ナリ

霪雨 ナガアメ

露水 ツユ

甘露蜜 「カンロ」ヲ煉ツメ蜜ノ如クニシタルモノナリ夷人呼為達郎古實〇甘露一名栄露甘露之説杜鎬記詳

十器記説尤善

群芳譜一名宝露 アマキツユノカタマリ

明水 和名タマ水即月ヨリトル水陽燧ハ火トリ玉ナリ

冬霜 冬ニ三月ノ霜

臘雪 十二月ノ雪 雪蛆ト云虫アリテ雪ヲ食ス雪中ニ生ス

一本是也作是歟

雹 アラレ 大アラレ ヒヤウノヿニ

夏氷 ヒノタメシ 今冨士山ヨリ献禁裡者俗ナラフテ六月朔日氷餅ヲ食ス

神水 一名聖水此二字出記録篇仙傳ヨリ出ツル怪水ナリ

半天河水 竹ノ切株ニ溜ル水ナリ弘景ノ説佳ナリ

屋漏水 アマモリ アマタリ

水之部二 地水類 三拾種

流水 ナガレミツ

水花 茗性要畧曰味平無毒和括蔞若遠行無水処早朝預服一丸永不渇即水沫也

井泉水 井戸ノ水

節気水 一年為二十四気一節〻ノカハリ水也

醴泉 濃州養老泉是也

玉井水 玉ノアル辺ノ水

乳穴水 鐘乳石ノアル辺ノ水

十五行
平野板

○△東医宝鑑曰引入門云麻沸湯則青麻煮汁也

温泉　日本ニテ有馬ヲ良トス○湯水有赤魚而遊ト云コトアリ物理小識ニ出ス

碧海水　潮ノ水也

塩膽水　シヲノニガリ

阿井水　製阿膠水

山岩泉水　今云ミミツ也　懸出トハ水ヲ出ス也　正出トハ水ノ出ル也

古塚中水　如字

糧罌中水　米ヲ炊テ其米ヲ入ルモタイヲアライタル水也

赤龍浴水　赤竜ヲ洗ヒタル水也

車轍中水　車ヲヒキタル迹ニタマル水

地漿　黄土地ヲホリ水ヲ入レカキ交テ上ノ清メル水也解菌毒又以壁土代之

熱湯（アツユ）　釈名麻沸湯[illegible]即青麻煮汁也今考之未詳

五枝　食物本草曰五枝者桃柳桑柘槐是也

十五行

平野版

盥°

生熟湯　ムヌユ　新汲水ト熱湯ヲマゼタル水

虀水　虀ノウテナシル即キリツケ水　虀同°齏錢西切周礼醢人註醢醤処和細切為齏　°虀

漿水　コンヅ　酉ユノ処用ノドウサヲモ云（漿水ト）

甑気水　コシキノミヅ　ムシタルユゲノ水也即トキシルナリ

銅壺滴漏水　ミツトケイノミツ、ロウコクノ水也

三家洗盥°水　三軒ノゴキアライ水也

磨刀水　カタナノトギ水

浸藍水　アイヲ浸ス水

市門溺坑水　道途ノ小便水（シタル穴）

洗手足水　如字

洗児湯　タンヂヤラウ水

猪槽中水　ブタフ子ノ水

洗布水　センタク水

火ノ部　凡二十一種

賤

陽火陰火
石油之火　一石腦油 石油ノ火 即クサウス油ノ火 出越後州村上妙
法寺邑
三昧之火　指心火不動也又仏家道家処称者
野火鬼燐　或云諸血ノ燐先也 松岡云非也人油ノ火也雨カヽレバ
老ナス者
蕭丘之寒火　土ヨリ出ツル火也其火取ヨウアイウスチノ火ノ中ニ
入ル其中ヨリ出ツルモノ也
食火之鳥　蛇鳥一名骨托禽 蕃名加豆阿当
燧火　ウチビ
桑柴火　クハノエタキビ
炭火　スミビ
櫟炭火　今云池田炭ノ火 池田ハクヌ木也
烰炭火　ケシズミノ火
白炭　スミノジヤウヽ一説ニ白焼灰ト云フ食物本草作生炭

十五行

平野蔵

火
堅火　カメスミ
蘆火　如字
竹火　如字
艾火　灸ノ火
附録
陽燧　日ヨリトル火
神鍼火　壽世保元有雷火鍼法又在医宗粋言
火鍼　ヤキハリ
燈火　トモシビノ火
一名燈火　テウシカシラ　一蜻蜓眼出宋楊誠斎詩集
燭燼　蝋燭ノモヘシマイ　桐油燭桐ノ類カ桐油燭烏臼リウキウ
ハゼ虫蝋燭 イボタノ木ノ虫ノ巣ニテ作ル也 集解桐油燭
柏油燭　烏柏 リウキウハゼ

土之部　凡二十一種

ガラス使用

画粉（トウンツチ）
〔胡燕窠土
越燕窠
壁小也〕

白堊　イマリツチ　ハニカキ土　江州スリハリノ産上品也
一名白墡土
甘土　未詳
赤土　アカツチ
黄土　キツチ
東壁土　宗始云此屋之西壁向東土也　古人多泥東字用東墻土者
非也
太陽土　ヒアメリノ土
附録
社稷冨家之土　以下所載ノ諸名或不候他間自通者有畧之也　後
亭部中土（厠所ノ）　道墊土　車輦土（車ノフチニ付タル土）　市門土（市場ノ土）
戸限下土（シキミノ下ノ土也）　千歩峰　地コブ　鞋底下土
柱下土　牀脚下土　焼尸場上土（如字一名化人場）　塚上土

可綿加買　又男牟
賀昌作錫
土墼　イシハイノヤキカス
甘鍋　ツチナベ
砂鍋　ツチノヤキナベ　スキヤキノナベ

桒根下土　胡燕窠土（越燕窠短小也）　百舌窠中土　未詳
土蜂窠　蜣蜋轉丸　鬼屎（陰湿地ニ浮出スル土アリ是也）
和名地リス）　鼠壌土　鼢鼠壌土　屋内壖下虫塵土
蟻蛭土（アリノモリアゲタル土）　白蟻泥（ハアリノ子）　泥トモ云フハ
羽蟻未成云或蟻土　蚯蚓泥（一名六一泥　王維詩集詳也　造
作ルハ不佳）　螺螄泥（ニナノツチ　ヒンナツチ　カニハナノ
土トヒンナ土）　白鱓泥（未詳）　猪槽上垢土　犬尿泥
驢尿泥（和ニ無）　尿坑泥　糞坑底泥　簷溜下泥
田中泥　井底泥　烏泥（造作ニタルモノ也　ヒキ茶）
弾丸土（タニコユニノ土ハシキ鉄炮玉）　自然灰（未詳　和ニ無尤不
渡）　伏竜肝（クドノヒタイノ土）　鍛　釜月（革性一要
簋条作釜斉）　白瓷器（セトモノ）　烏古瓦（フルカワラ）
牡瓦（マルカハラ）　牝瓦（ヒラカハラ）　古磚（シキカハラ　ヒラカ
ハラ）　烟膠（ユエヱス油ヨリ出ス）　墨（スミ）
釜臍墨（ナベスミ）　百草霜（ナベノヒタイノ墨）　梁上塵（スミ

十五行
平野版

和剤局方琥珀散用黒衣註曰竈屋塵是也）
冬灰（ウツミ火ノ灰寒ノ中ノ灰） 門臼塵（門ノクロヽヽツ
イタル土） 寡婦牀頭塵（如字） 瓷甌白灰（ヤキ
物ニ用ル灰カサ子焼ノ灰也） 香炉灰（如字）
鍛竈灰（カヂヤノ灰） 石鹸（シヤボン）今ノ衣ヲ洗フモノナリ）
藍澱（シヤボンノ類アイロウ）

金石之部 一

金（コカ子 キカ子） 行厨集曰兼金好也其價兼倍於常者
金錬事詳出羅周彦医宗粋言） 集 麸金（ナスビ
金即沙金之） 爪子金（ウリサ子金） 紛子金（佐州ニ云
シラマサ是ナリ） 金石（佐渡ニテ石ト呼金山ノ石也）
葉子金（ウスクケヅルモノヒラ金） 沙金（佐州西見川産
是ナリ） 釵釧（釧枢縮坳辟鐶） 曽青（コンシヤ
ウノ上品也） 旭按回春眼目之医按中云 曽青即膽礬
是ナリ

銀（行厨集曰銀曰白金又白鏴又曰冊精） 釈鋈
音屋詩経所謂鋈者メツキ也與鈒別也）
鏐（金ニモ通ス） 集 老翁鬚髪（シロ金ノ筋也） 御黒石（佐
州ニテノ云テイシ是ニ 伴金石ト云者誤也）
附録 黄銀（未詳） 烏銀（ススヘ石 フスヘ金）
縵理（ミタレヤキ） 亀文（スクヤキ）
錫恡脂（出波斯国金ノアラ入金） 銀膏（本邦ニ無白錫ト
水銀ト合テコシラヘタル者也）
硃砂銀（未詳） 赤銅（アカ金也本邦ニテノ赤銅ト呼者ハ紫銅之
響銅（サハリ） 白銅（シロカ子） 青銅（カラカ子 即今
ノ唐金也） 紫銅（シヤクトウ） 白慢銅（未詳）
有馬ノ金山ニナシヲト云郡有其所ニ出ル金有色青キ土ニ
吹之則金土別ツ再吹ハ真金出ス 自然銅（キリメイ
シ、信州ニ出ス無名異蚯街不自由銅ノ属ニシテ有別自然銅
色赤形方也 信州及紀州ニ出ル色黄ニシテ四ナルハ無名異之

蛇銜ハ方円不定也ヲ以テ別ツトスルナリ

銅鉱石（カナヤマイシ） 稜石（カトイシ） 青女（水銀）

銅礦石（アカヽ子ノアラ石ナリ） 銅青（ナラロクシヤウ）アカヽ子ロクシヤウ） 鉛（ナマリ）日本ハ上品也一種水中金出瀅礦類書等 釈 水中金（後世所謂水中金與此別ナリ 松岡云 組粉真粉之諸名者在於此後）

胡粉（成人為者也） 尾粉（自然底ニ在者也）

鉛霜（イセヲシロイノヤキカヘシ） 粉錫（京ヲシロイ）

草節鉛（アラナマリ）

鉛丹（タン 画家所用者也） 釈 黄丹（蓋真砂曰黄色也凡言丹則指真砂也）

密陀僧（ロリコルリコ 信砂ノキリメ石也類ナリ其底ニアリ） 古今医統曰 金錫即密陀僧金色者） 錫（スヽ）

古鏡（カヽミ） 鏡鼻（カヾミノトツテノ今云柄也）

古文銭（銭於詩経為鋤也 後世借用）

集 六剤 金有六剤 六分其金而錫居一 謂之鐘鼎之剤 五分其金而錫居一 謂之斧斤之剤 四分其金而錫居一 謂之戈戟之剤 三分其金而錫居一 謂之大刃ノ斉 五分其金而錫居二 謂之殺失斉之斉 金錫半 謂之鑑燧之斉見

考工記

銅弩牙（アカヾ子ノ弓ノハツ之） 鋼鉄（ハカ子） 鉄落（テツクス）

鉄（鑴ヒラミトヘケルカ子之） 労鉄（ナマクラガ子）

鉄精（テツノチリカ子ナリ） 鉄華粉（テツノツリリサビニ）

鉄鏽（クロカ子ノサビ之） 鉄熱（テツノアセナリ）

鉄杵（テツノキ子） 鉄銃（テツホウ）

鉄漿（ヲハクロ） 鉄鏃（クロカ子ノヤキシル）

諸鉄器 下畧不待鮮通者故不載也

石之部 二 玉石類 十四種

玉（タマ） 行厨集曰 玉云白玉 又曰琨玉 美玉曰琨

玉篇下殻音
古岳切双玉
曰殻

集 殻（青玉也見下） 玉泉 白玉髓（玉ノ精）
集 無忌州（出薇蘅附録鼂麹州又名無忌州） 青玉（アヲ玉）
附録 璧玉（未詳） 韻會曰尓雅曰肉璧邊也好孔也肉
好若一謂之環 玉英（未詳） 金玉石（未詳）
青琅玕（サンゴノ青キヨウナモノナリ松岡云石梅又琅玕
之類カ） 集 青珠（ムシノスカ） 碧靛（アイ玉）
頌説蔵器説石闌之説也
珊瑚（アマカハト云上品也チマタト云ハ下品也） 馬脳（賀入翫ニ
産ス）
宝石（ツカルイシ）チヤリノ類也サクロ石ト云フ有指石ノ類カ
火珠（火トリ玉 漢渡アリ）
猫睛石（トンボタマ） 玻瓈（黒者言馬玻瓈、二種者天竺ヨ
リ出ツ水精ノ類也酒色ハ黄色文ル色也） 水精（ヒイトロ）
古人云石英與水精二物非也石英即水精也古人所説水精者
有地中之名石英者地上之名也此説又非也在地中之者非水

精而石状也） 集 硝子（ビイドロ） 假水精盌（ビイドロ
ノ盃東坡詩曰有茉玉船一名火剤以之制故曰假水精
附録 火珠下ニ枚回（枚回花セヒヤウイバラ似火珠松岡
云故枚瑰花紅キノイバラニ此珠ニ似タリ故名ク） 硬石（未詳）
琉璃（蔵器説イシ 時珍ビイドロ） 燈珠（マハリトヲロ）
雲母（キララ） 脩治地膽草（按若莫無花実有名地膽
草又蒲公英無花実名地膽草疑一物）
白石英（ケンサキノジヤリ。カブトズイシヤウ又曰紫石英ヨ入於
此下為別条者非也） 集 英鶏（与褫鶏別物未詳）
集解 瓌瑋ハ琦瑰也 紫石英 集 麦句薑（即天
名精）
菩薩石（シヤリ、津軽ヨリ出ツルシヤリノ津軽石ニ似テ別之）
朱子語類曰蛾眉山有石号菩薩石者如水精状於日中
照之便有円光想是彼処山中在一物日初出照見其形如
仏影耳蛾眉山看仏以五更初看 集 薫黄（キラト

ガラス使用

近来医家引千一疏云丹草也以此方治諸病之謂也説非也按丹者吳丹之丹而吳之朱之義也朱砂雄黄空青硫黄雲母戎塩硝石雌黄謂之八瓊曰景天馬齒莧佛甲草[illegible]皆有水銀不可飽食

云者也

一石之部　三

丹砂（シンシヤ）今云真砂自真名出故用真字　集解如櫻蒲子謂之生砂　其性質秦要別名春櫻　芙蓉砂（出三体詩）

脩治　五方艸（馬齒莧一名）　地丁（スミレ）　発明

三建湯　天雄集解曰此与烏頭附子三種本出建平故謂之三建　附方　沙蜂（石蚕釈名叮一作呵）

皐涕（蛞蝓一名）

水銀（ミツカ子）　釈　頌（千金曰頌粉是焼朱砂作水銀上黒煙也一作絹粉）　集　猪脬（エフクロ）　紫河車（蚕休又紫河車）　発明　五穀（禾麻粟麦豆周礼疾医註五穀麻黍稷麦豆云云）　三牲（詩註未殺謂之牲殺而未熟謂之腥又牛羊豕曰三牲）　附方　號丹（按出號州鉛丹字）

水銀粉（ハラヤ　イセヲシロイ）　脩治　包巻（緑巻一名巻

十五行

五）　石黄（雄黄）　附方　無雄雞子（雞集解曰俚人畜雞無雄即以雞卵告竈而伏出之云云）

粉霜（イセヲシロイヤキカヘシ）　医宗粹言作粉霜法用水銀二両塩一両明礬一両硝五錢共研一処以水銀不見星為度用固済礶一箇装入煎炭　礶口用鉄燈盞固密鉄線纏紫安百眼炉上先文後武煉三炷香燈之盞注水冷定取下升在盞上者掃下為粉霜隧下者可以洗毒瘡傳毒腫

安名　以海鹵為薑（一薑ハコモヽスルコトヤ）

銀朱（今之通用之朱）　集　石亭脂（赤石脂一名）　石硫赤条時珍曰此即硫黄之多赤者名石亭脂而近世通呼硫黄為石亭脂又朱考之也　附方　官香（疑是官粉）

靈砂（スイキンロアハセ者也）　脩治　青砂頭（即青金也医宗粹言外打吳砂法詳之）　胡孫（サルニ）　水火鼎（取焼酒如鑵之上水ヲ入置也）　挟白粉一般　発明　陰陽水（即生熟水也）

雄黄（一名夜金　綴耕録）　脩治　三虫（赤白黄虫也出病源候論）

主治　五兵ハ（按五金欤）　附方　小米（見粟条下）

雌黄（一名金液）　画家用者此ノ藤黄也有大毒不可与此ノ
字彙礦雌黄也悪者謂之礦好者謂之砡　集　臭黄（見
雄黄ノ集解　玉火石（火ウチイシ）　附方　五葉艸（即
五爪竜）

石膏（一名玉雲片　出輟耕録）　附方　滙青（三十五松条松
脂ノ一名）　一石膏硬軟有二種　硬石膏ハ理石ト云堅キ者也軟石
膏格致餘論ニ弁詳也（可入薬用寒水石ト呼者有三種方
解石一名寒水石塩ノ凝結者寒水石石膏ノ一名モ寒水石以
上三種也　集解閻孝忠所説者以松岡ノ説見之其色如
白礬形似石某以手推之則可砕ト　竜石膏（未詳）按古方
所用寒水石是凝水石唐宋以来諸方所用寒水石即一石膏
也

理石（石コウノコマキニ　石膏ノ硬者也与長石可互見
附録　白肌石（未詳）

長石（即硬石膏也今ノヒウチ石也　洛華出愛宕山　千金翼曰馬牙
一名乳石一名牛脳石本艸名長石　方解石（キリメイシ、
イキリ、　佐州イヽキリ　フシキリ　今石盆ノ内ニ入愛
スモノナリ）

滑石　一名利竅　出薬性纂要　一石寧（輟耕録）　肥後焼
山石又滑石類也以縣名南越志曰膋縣出膋石即滑石也
云云　集　膋石（讃岐ノ葡萄石亦其類）　青田石（ロ
ウセキ一名凍石）

不灰木（未詳）　和無近来不来按談州有不灰木山中産之恕庵
北渚両先生見之云是真之不灰木予未決可否
附録　松石（松化石也一名康干石大明一統志松岡曰松化石
者女松已化者

五色石脂（イシノハタ）　佐州所産者共所説之桃花石及赤石
脂也　黒石脂（以為石筆）　黄石脂（生嵩高山色如
鶯雛云々證類本艸）　赤石脂（一名紅怨石　輟耕録）

十五行
平野版

釈名
朱氏語類云
三清之字出
於老子其所
説三清蓋釈
氏之身而為
之尓

桃花石 恭所説者在佐渡他説未詳 古来不渡伊景桃花
石ヲ用ユ用白石脂ノ未赤者歟
爐甘石（未詳） 和ニ無シ古昔不渡近来渡者有コシラヘ者也
井泉石（未詳） 揖斐軒啓云観音石乎 集 薑石（サヌ
キノギヤフ川茶石也殷孽別名又見薑石条
無名異 有薬肆関東ニ出又石見ニ出ルハ紫色也銀山中
ニ出血止ニ妙也 集 黳石（クロスイシヤウ） 密栗
子（未詳）
石鍾乳（ツラヽイシ） 熊野山中大和大峯其外処々有之佐
渡ノ海府又出之 集 鵞管石（出勢州）鳥羽ノ先ノ
如レ丹生アメ色上品ナリ） 気味 猫児眼艸（沢漆一名）
孔公孽（鍾乳ノ下品乎時珍説共ニ和ニアリ） 殷孽（鍾乳
ノ属灰色ナル有ヨシ） 附録 石牀（鍾乳其上カ）
石花（鍾乳ノ花様ヲ成者也宗奭所説ノ者石梅也）
石骨（未詳）

土殷孽（未詳）石上ニ生ル鍾乳也）未見 石脳（未詳）有石
脳油与是不同） 集 握雪礜石（別物也丹州宮津ニ出曾
青也コンミヤウ即空青也）
石髄（未詳） 集 醍醐（ホウトル）
石脳油（クソウツノ油クサウツノ油）越後ニカクマトニ云処アリ
似薇如草ヲ以煎則油ハ油艸ハ草ニ別ルナリ越後妙法寺
村地中ヨリ火出ル地上ニ磨ヲ置ケハ磨ノ穴ヨリ火出ル也
集 附録 地溲（シブ）
石炭（カラス石） 越前福岡ニアリ伊賀ノクラモチ村ニモ有リ
土人呼テウニト云フナリ上ウニ、ワメウニノ二種有江部
ヨリモ出ツルハ堅シ江部ヨリ出ツルハクダケテノイレモノ也茶
店ニ乾漆ニカヘ売之ムサト不可用是ヲ呑ハ声唖也其ハニハ
醋ヲワカシテ呑ハ人忽詳ニハ用薬ニ出ツ○暦与炭
通シ円機活法引考異云福州山有山炭与音昔似土
形食之令人声唖因其山炭字与山炭相似以山炭作山炭誤

ガラス使用

矢食炭則不為唖　附録　然石（未詳）江州ノ石ナ
ヤリ処ミアリ此物カミカトシレズ
一石灰（イシバイ）江州ニ上山産上品也蛤粉ト可識別大坂
ニ出ル者蛤粉也江州真ナル者一石膏ノ如キ者也其ヲ焼
也　発明　鹿活草者即治鹿草天名精
附方　白果（銀杏別名）
一石麪（未詳）畢ニ有之由若水翁語レリ勢州挖地則出白如貴妃
粉者是也　附録　暈石（未詳）
浮石（カルイシ）一名海南石　心法　附録○時珍曰海中出然モ山ニ
モアリ冨士山ヨリモ出ツ　附録　量石（未詳）心法　附録引王
節斎本草云海石即海蛤因蜊殻在泥沙日久風波淘
漉门浄如石故名海石其味苦鹹故能軟堅化痰之
一石芝（イソメ石ノ類未詳）按居家必用云翠羽玉　集　無心草
（康干）康干石（見前）河辺松木化為石謂之康干
石也孔怡曰統按野古有康干河断松投之三年化為

石色蒼節即理猶在康干石按殷孽　附録石花　注宗奭
誤与石梅可互見
一石之部　四
陽起（雲母根也）慈石（ジシャク一名指南石　卿茉　集成）八面
通志建寧府下曰俗呼攝針　証類　本艸呂氏曰慈石一名磁石
脩治　五花皮（五加別名）　発明　続医説曰経脾為黄婆
指脾土嬰妃即心腎也　一本作續医説云経脾為婆胃為
金今按黄婆指脾土嬰姹即心腎也
玄石（磁石ノ針ヲスハザル者）磁石ノ下品也
代赭石（未詳　和無）美濃大垣ニアカ土ト云有此ナルベシ漢ヨリ
来ルト雖モ真日本ニテ色ヲ付常ナトスル故悪シ赭ノ字ニ
由テ土ナドヲヌル也　集　赤石（未詳　大和赤キ石白キ石有り
磨スレバ如珠稲氏曰赭石中有実者疑此乎）
禹餘粮（未詳　ダンゴ山石マンヂウ石）
太一餘粮（イワツボ、ツボイシ）大和伊駒山ノ辺ニ出イハツボト

十五行
平野版

呼此手金剛山ニ礪石ト云有此類ナルベシ佐渡ヨリ出ル者土
人ハツタイ石ト云也 集 蒲州（コウボウムギ一名海米）
石中黄子（イハツボノ中ノカタマラザルサキノ水ヲ云フ岩ツボヲ
振テミレバゴロ〱鳴也）
空石（出石コンシヤウ上品也泉州多田ニ出ツ）
曽青（コンシヤウノ下品又此外ニ花コンシヤウト云アリ清朝ヨ
リ渡ル漢名未詳 艸店ニアリ岩コンシヤウ氏云一説岩
コンゼウハ上品ノコンシヤウト云フ）
緑青（イワロクシヤウ） 扁青（未詳） 一説ニロクセウノ一物
一種花ロクセウ有）
白青（未詳 画家ニヒヤリロクト云フ者アリソレニアツレ氏非
ナリ） 附録二種（未詳） 石膽（可考）ハテニ云タンバン
叙名 立制石（理石礬石又同名三物一名）
集 青礬（ロウハ佐渡ニテ紫宝石山海経碧石者唐人謂之
琵乄ヒ アヲイシメウバント云也）
発明 鐵蛾（鉄落別名）

礜石（一名定風草性要畧）特生握雪三物相似タリ出丹波宮
津白黄二種アリ白ハ未詳黄ハ若水考アリ宮津黄色
ナルモノヲ出ス和名秘也ヌケシヤリト云モノナリ
特生礜石（大ナル者ヲ名礜石大小ヲ別ツハカリ也） 握雪礜
石（子ズミコロシ 按正曰細散如麪故有握雪名）
砒石（ヒソウセキ）焼ハ砒霜也生ハ砒也 蛮語ニテソツヒルマアハ
タヘツヒリマハタ氏云有馬ノ鳥地獄ト云フハ此者ナルカ高野
ノ玉川モ是類カ鷄ハリスノ内ニテツヒト云者有外ニハミヘズ
自然是歟 集 射罔（烏頭ヲ矢先ニヌツテノハナツ
ト云夷狄ノナスヿナリ）
土黄（ツクリモノ砒霜石ノ造作也方アリ） 脩治 硇砂（艸
店ニモウルシヤト云有 有毒
金星石（金剛石ニハブト云者有此ト別也）ハブハ鋼石ノ属也）金
山石ノヨハ手物也 艸店ニミノ金星石ト云者金山石ヲオロス
也金山石トハ真ニ金銀ノ石ニ非ス 集 翡翠石（未詳）

十五行
平野版

附録　星石（銀色ノモノナリ）　金石（未詳
婆娑石　松岡曰　豆班石者婆娑石之類可消毒也琅琊代
醉載硯賦曰之遵生八牋同之班石トラフ石八丁之櫻川
石作硯者也有武州
礞石　漢ヨリ来ル和ニ無シ　青ク上底ニ光有アリ一医宗必言
曰青金剛即青礞石一說ニ紀州ニ出スト云温石ニ似タル石也
和名無薬用ハ漢渡良　脩治　大坩鍋
花乳石　漢ヨリ来ル一種和無黄質白花也ヨコニヘゲル也
淡白色ナル者良辰砂ノ時衣ニ用　一医統引集要曰乳石
即石蟹佐州ニ出ル紫石モ花蕊石（桃花石ノ類也）
白羊石（未詳）　黒羊石（未詳）
金牙石（未詳）　集　大如碁子（古解石自然銅之類）
金剛石（コンゴウ石和ニ無ヽ砂ト石トノ二種有鼠ノ糞ノ如キ
ヲ金剛石ト云砂ノ如キヲ金剛セウト云出于大和
集　佛牙（ニリツキノシヤリ）　紫背石（未詳）

十五行
平野版

鼠矢子（子ズミノフン又山茱萸一名）
砭石（イシバリ出于北国神師ノ矢ノ根ト云）　附録　石弩（ヤ
ノ子石）稲氏曰石弩砭石一物也
越砥（カミソリド、アハセド）　礪石（一名磨石証類ニ出ツ）
薑石（セウガ石）讃岐ヨリ出ルキヤウブ川原ノ石也形似男
根殷孽別名薑石
麦飯石（ヌカミソイシ出佐州府中豆飯石）集　磨石（質粗
ナルヲ云）
水中白石（メクラ石、ウシ石　佐州濱ニアリ貼唇則難落是也）
河砂（カハスナ）　杓上砂（シヤリノスナ米ヲカシキタ桶ニユリタル
アトニアリ）
石燕（ヘゲ石）　石燕有三種同名異物也青キ石ヘヘゲテ飛アリ
又雀ニ似タル有　石燕挿雲晴又雨トツリルモヘゲテ飛フヲ云ナリ
一石蟹（蟹入砂中久而後凝為石也一石決明ナドヽ盤結其
形如扁蛇者即是也）

石蛇（ハマカツラ）白紫ノ二種アリ歌仙貝入タリ大和本草

ニマアリト云有　集　查梨（疑酸梨字）

（ジイガセ）石蚕（イシカセ）南都大黒虫モ石蚕ノ属也京都ニテハイハ
虫ト云フ佐州俗名ヲ、チノセナカ土人ジイガセナカト云此三名
一物ニテ虫也此所ニ説者石ノ似蚕者也

石鼈（トウガメノヲハニ）　銭獣児（鼈虫ノ一名䗪土中
ニアリ）

緑塩（イワロクセウ、シカト未詳）時珍説ニ拠ハナラロクセウ
ノ制シャウ也竈ニ入ル者是ニアラサレバ色不好螺髪ハ釋
加ノアタマノ事也螺髪ナスルコンセウヲ佛頭青ト云石
緑ハ緑青ノ別名也出十巻　集　以銅醋造者云々
（此銅ニ注キヲサビヲ出シテ製スル也）

主治　独白草　箭毒鳥頭ノ一名也

塩薬（未詳　アハセモノ）　附録　礜石（未詳）　絡石
ノ一名

十五行

平野藏

朴消　和ニ無（アラエンセウ）　稲氏曰塩ヨリハ毒サナシ故ニ平生
塩ニ代テ用ル也　海辺ノ山中岩石ノ間ニ如雪白キ物有此也
日本ノエンセウハ古キホコリヲ集メ煎シ出タル者也芒消朴
消ノ中ニテノ煉テ上ニ如麦芒者アリ故名芒消其下ニ盆ノ如
ノ成タルヲ盆消ト云　気味　麦句薑（天明精一名）

独蒜（独頭蒜也）

玄明粉（アラエンセウノ二度煉リ）　馬牙消（馬ノ牙ノ如クナルヲ云フ二種
ニハ非ズ）

硝石（エンセウ）是即鉄炮ノ薬ニナル物也唐ニハ塊ヲナスモノナリ日本ニ
ハ拾塵芥以制之　脩治　鶏腸草（有蘩縷蘩縷集解雞腸
之名又胡荽別名）　発明　銃機（テッホウ）松岡云火消者
即消石水消者芒消也

磠砂（和名モウシヤ）　蓬砂　薬店ニテホウシヤト云アブラ
ホウシヤ　スキホウシヤノ二種アリ日本ニナシカザリヤニテ金銀
ヲツキ合スニハ油蓬砂ヲ用ユ薬用ニハスキ蓬砂ヲ良シ

附録　持蓬殺（未詳）
石硫黄（イヲウ）ウノメ、タカノメ、ヒゲチノ三種有ウノ目上品也
黄赤色也今ノ発燭ニ用ユルハヒゲチ下品也　タカノメハ中品
也崑崙黄ウノメ有馬、伊豫ノ道後等ノ温泉皆イヲウノ
所生也　集解　撲写作器（所謂硫黄盃也）
附方　羊起石（即陽起石也）　紫務（即銀朱也）　轂耕
録硫黄一名引光奴
石硫赤（イヲウノ赤キ者下品也）　石硫青（イヲウノ青キモノ下品也）
附録　硫黄香（未詳）
礬石　紫礬和ニ有即今云メウ礬也数品有𪜈皆和ニナシ
ロウハ緑礬ノ唐音也
集解　鍍作（メツキヲキセルニ）　絳礬　黒礬（ロウハヤキ
返シ之）　附録　礕鍾（礕銭一名）
緑礬（ロウハ唐音也）　按有二種和有下品紙ニ包ミ置ハシ
メル唐物ハ紙ニ浸ミズ能可分別疑ハ和ハ非緑礬毒石也

タンハンナラン乎膽礬緑礬混シ易シ唐ロウハ不用染物
膽礬ハ用之　附方　莢子（一作芙 莢子其疾藜ノ別名）
赤脚鳥（山鵲鳥集解曰山鵲処々山林ニ有之状如鵲而鳥
色有文彩赤嘴赤足尾長不能遠飛）
黄礬（黄茶ミテキメウバント云）丹房鑑源仙術ノ書也只丹房
トニ云陸英ノ処也　主治　野雞　即雉也治五痔又痔ノ一
名野雞病出仁齋直指方
湯瓶内鹼（湯ノ釜ノ内ノカタマリ　スヤキカメノ内ノヲリ）
附録　石脾（ヲダワラ石乎紀伊国タチクロノ類ナリ）
石肺（今ノヒロウト石此類也）　紫石華　黄石華　白石華
（按三種石英ナルベシ）　陸石（今俗間耳垂青完ノアキ
タル石ヲ仏前ニカケテ念スル其類）　此外諸石未詳
封石（封碑ノ印ヲ誌シタル石也古クナリタルナルベシ火薬鉄炮薬）
鎮宅大石（地祭リノ石）
草之部一　山草類三十一種

十五行
平野版

ガラス使用

甘艸（輟耕録一名倫宻珊瑚）須知曰漢可用一種阿蘭陀甘草ト云有甚大也フトサ一寸余及美也然ドモ性不堪用近来ニ朱點ノ朝鮮甘草ト云有但甜味過テ不過佳也不堪用 南京福州共ニ可用也在本邦甲斐国葉藤ノ若葉ニ似テノ開紫花順ナカ和名抄曰アマクサト熊氏曰綱目ニ説所（ノ）如鮏魚腸ト云（モノ）本邦ノ産形状相近の

集 畢豆（紅豆一名） 黄茱（附録ニ有（アリ）二種有（アリ）是ハ馬ノ茱ニ入ルエンシレイ草也） 相思角（唐アツキノサヤ） 黄之藤（蔓又草（数ニアリ） 即画工所用ノ雌黄也）

発明 都淋藤（馬兜鈴一名）

蘦ハ大苦也ト云ハ苦キヿニアラズアマタルキヿ也名雅ニ云蘦ハ甘草也トス也苦ハ苦悪ノ苦ニクムヿ也怒圭ハ大苦ト云フハ別物ニ見タリ槐葉ト云ヨリ荻葉ニ能似タリ

黄耆 和漢共ニ有（漢ヲ為上） 京師厳山ノ上ニ加茂キフ子ノ辺ニ有

木黄耆 小黄耆 錦（漢ヲ為上） 黄耆三種アリ木黄耆ハ越前江州ヨリ出ツ葉如荻而有毛羊歯（葉） 黄耆別ニ一種東武ニアリ 藤黄耆ト云木黄耆ノ類非真黄耆

○集 頌曰 苜蓿根 熊氏曰此百脉根ノ誤字 松岡曰時珍所説者（苜）苜蓿者木黄耆也 苜蓿ニ二種有字雅苜蓿之花曰光風草詩所謂マメノハ也 須知云称錦黄耆者為上軟形而以如錦緜名也以生錦為非名今人家菜園多種之不知有真種錦黄耆並葉軟弱味甘而根色帯黄色京師北仙中門者之東国是ヲワタ黄耆ト呼合漢名

人参 凡本邦俗称人参者其品多シト雖モ然ドモ其気味不及朝鮮人参ニ品後挙ル其目 歟 鬼蓋（土苗附録又有鬼蓋名） 地精（何首烏一名） 神艸（黄耆ヲモ神艸ト云又赤箭ノ一名） ○ツル人参（即羊乳根） ○ボタニ人参（皮ヲ剥去テ其家是ヲ削防風ト云 キボウフウ是本艸防葵ノ一種ニテ参類ニアラズ）

十五行
平野製

○楓葉人参註
脱落今補之
註云漢名未
詳本草弁疑
為真人参非
也
近来日光山中出一
種人参俗呼
漢文事人参
按此即参之尾
也以頭曰節人
参以尾曰漢
文事人参是
一物而非之品

コミヤ免人参（此草庶ニ所呼ノ防風也実ハ非防風本草所
謂防葵是也）　白山人参（一名山人参ト呼者有是
即眞寧防風山城白川此物ヨクアレ）　竹人参（即菜
部ノ胡蘿蔔也漢名未詳本草弁疑為眞人参ニ非也
楓葉人参　ツリ金人参トミキ人参（即沙参也或国俗前胡人
参ト云フ）　ワラビ人参（一名島原人参）　日光人参（葉
似蔭地蕨根赤漢名未詳　此者京師近キ田舎　イワヤト云処ニ
有近来日光山中ニ一種人参アリ実ニ与此一物而二種ニアラズ）
本邦俗称人参者種類多シ羊乳根沙参ノ類而蔓生者也並
葉頭異ナ也気極臭根大者如拳皮上生疣瘩濱防風之根
相似擘開則白色並葉共ニ白汁出似乳味甚甜俗医代用
沙参ノ貝原子為羊乳根是也
ムカゴ人参（漢名未詳疑是菜類乎一名ミツ葉人参一
名芹人参）　薩摩人参（二種有一種山城白川山中ニ
有漢名救荒之女婁菜也一種薬肆ニサツマ人参ト呼者ハキ

中過眼記此

説

ブ子山及天台山中ニ所出ノ三椏五葉ノ者也此本邦ニ於テ尤モ上品トス
和名ヒゲ人参チクセツ人参クマモト人参　吉野人参　五加葉人参　トチノ
木人参日光佐渡ニテ山人参ト云此七名一物也
海葉人参（一名アミノメリサ又アミメバ又八丈艸トモ呼フ即是都
管草ナリ）

漢産人参目

唐人参（唐ノ商人呼京参ト、是即女直人参ナリ）
朝鮮人参（上品）上黨人参（上品）古出之明朝以来不出
之）　判事人参（有二種）　鰕手人参（疑是本州所謂
紫團参乎）　湯人参（又呼福人参或服人参此人
参ノ名義謬誤其甚遠未詳也深様其庶之称也）
芦頭人参（非用芦頭以外節参切片而縄縛蒸而夾之膺
物也和漢共有之物理小識五雜組等可考之）
懸頭人参（一名サツマ人参又吉野人参ト呼今ノ四辺深山中
背陰地ニ生以三椏五葉種無実参ノ形ヲ備ヘテ集可用而

十五行

平野版

其本根味苦不堪用細根似髭鬚者味甘辛ヤヽ此一種ニ苦近
真又竹節沙參ノ類補益ノ剤中ニ入ルベカラズ
沙參（トヽキ、ツリカ子サウ）　秋羊乳（ツルニンジン）
虎鬚（欵冬ノ別名）　苦心（知母ノ別名）
薺苨　救荒本草杏葉沙參也在本邦苗葉似杏葉異沙
參ノ丹後獅嵩有此者物須知曰但州方言桔梗モトキト云山
城山科ニテノヒヤヽト云此物數種アリ莖葉有毛者アリ無
毛者アリ救荒本草ニ見ヘタリ一類又有杏葉者即次ノ薺
苨也似沙參根極テ大而長也一種ニ種也功用相似タリ本草
原始甘薺苨ノ條有土桔梗之名松岡曰雞桔梗此者近シ
紫雞桔梗本邦之医充遠志用非也遠志之別名
桔梗（キケウ）和漢共ニアリ（可用）キケヨウトハ後世ノ呼誤也
順和名抄ニハアリノヒフキト云花紫白不分單弁ノ者可
入藥用一種沢桔梗アリ東武ニテ車桔梗トモ云フ救荒ノ
山桔梗也急偏頊言ニ云河白草也又水ナキトモ云ハ救

十五行
平野版

荒野譜之浮薔也桔梗根有細大葉肆ノ小者稱楊枝牛
蒡之然不拘而可用也一種也
長松（未詳）　充松葉非也松葉者救荒所謂鹹十蓬是也本艸
佐土ニテノ松ラナト云ノ集　藏器所説者ハイトリ花カ
黄精（ナルコユリ）　本邦山野尤多紫莖者為筆管此真
黄精也青莖者不為筆管本邦葉肆ノ稱地黄ノ手
黄精者即萎蕤也稱生姜手黄精者真黄精也松岡子
曰萎蕤者葉軟潤黄精剛狹也弘景説独生之カウラン
ノ説也黄精ニ似タリ蔓生ノ鈎吻アリ毒甚シ蔓生ハ俗
名ツヽラウルシ須知曰黄精和真也葉肆呼生姜手是也本草
草葉不相對者為偏精對生者名黄精和真也
秋子野生姜　救荒本草此別物也和名菊葉劉寄奴也松本草野生姜
岡曰救荒野生姜白川山中ノヒキヨモギニ近シ
甘萎蕤（アマトコロ、カラスユリ）葉重ナリテ葉背粉白也葉カ
サヽトヒテ花小サシ南部地方ニ出ル上品也葉肆ニテノ地黄手

ノ黄精ト称スル是也可用　附録　鹿茸（未詳未
ウチヤリト云非也）　委蛇（ホウチヤク）此二字鹿歸草
ノ類名ニ有テヨキカ
知母（和漢共真也　和多唐少）　釈　児草芫華（芫花）ノ別名同
肉蓯蓉　本邦未見自西土来者多偽物也　当詳審備後ノ
俗マムシグ（ケ）サト云此モノニ近シ然レトモ非ス両温ノ気ニ因テ
生スル者也　漢渡ハ松笠草ニ似タリ　松岡曰無蓯蓉代
用瑣陽而佳也又明石濱辺ニ有肉蓯蓉ハ雌草蓯蓉
ハ雄也　集　艸蓯蓉（東武ノ江頭ニアラ[illegible]イナト
ノ川端ニ葉似夏枯艸根白者アリノ即艸蓯蓉也）
列当（古説土アケビニ充ルハ非也）若云山濱ノ海辺ニ草アリ葉
ウツボ草ノ如ク根似松蕈而有鱗甲此按肉蓯蓉鎖陽
ノ類也此物秘也
鎖陽（未詳薬肆ニアリ）男根ニ似タルモノ也　圭ノ説ニ肥前
圓山辺是ニ似タルモノ出ツ耳　聾耳之者ニ用ト云　復知曰漢

渡ハ一種真也可用未聞有和産鎖陽功大抵肉蓯蓉ニ似
タリ可代用也

草之部二　山草類

赤箭（本経）天麻（宋開宝）（仙台ニテヌス人ノ足ト云）松岡（子）曰赤箭有
曰茎天麻者曰根也本邦尤多仙台之産佳也茎（葉）似芍薬一
葉而茎紅也江戸目黒道観山辺ニアルハ羊角天麻也
還筒子（天麻ノ実ヲ云）　釈　鬼督郵（凡曰鬼督郵
者其品尤多徐長卿一名キトクユウ鬼箭一名ー｜ー別
一種ノー｜ー　本綱目今所謂ー｜ー｜ー凡四品不可混而為
一也共ニ別物也）　集　黄瓜（キウリ）　御風艸（天麻
ノ一名）　青葙（ノケイトウ）　正誤（一種ノ天麻疑白花ノ益
母艸乎
朮（ヲケラ）　松岡（子）曰朮有蒼白二種和漢共産白朮以唐為
貴蒼朮以和為佳也武而道観山及下総国有白朮俗呼
曰天目（手）或曰茶挽手此真白朮也其外帝都ノ花店呼白

十五行

平野版

一本香川氏ナ先生曰ニ作ル

朮者皆蒼朮也堀氏曰本経無蒼白之別至別録初為別本邦所出二物自古以一物別新舊根旧根為白朮新根為蒼朮土佐道壽中山三柳改之新根為白朮舊根為蒼朮此説佳也薬用則蒼朮者用麁白朮者用和三好允白朮可也香川氏曰古唯単言朮而無蒼白之命名此邦所産以単為三好嫩根蒼朮色青白味苦者為佳也按白朮根白蒼朮根青黒此二物也後世不知而為一物非也須知曰漢真也今所渡者本草原始所図雲頭朮雞腿朮相合尤上品也一種蕃舶所載来者片白朮川白朮ト云アリ性悪印芳川白朮者川白地ヨリ所産者也和邦ニハ以新旧分蒼白非也軽虚而性味不備ノミニ非又有爆烈性無中和気共入蒼朮可用漢蒼者気甚悪油多不佳製法辛用ユレバ発服用能焙可用也然蒼朮者和産為是漢白朮モ肉ノ色黄ハ黒ミニシテ不潔白者或入湯或経年受気脱不可用色白為上品又東国

一種根形極テ大ナル者有名天目白朮是白朮之一種也但不合雲頭鶏腿耳

集　棠梨（即甘棠也　和名ヤマナシ、カメナシ）

狗脊（クサソテツ）　稲氏曰狗脊有二種按俗ゼンマイト云非也センマイハ薇也此狗脊ト云ハ鬼センマイ犬センマイノ類也今自西土全色狗脊ト云物渡或於本邦有此物此尤上品也可入薬用又黒狗脊即貫衆也和ニ有リ形ハソテツノ如レ又一種偏生アリ何モ本邦ニナシ全色ハ本邦希也

（集）透山藤（未詳）

貫衆（キジノヲ）古訓（シダト云非也シダハ格注草也）貫衆以鶏頭者為上品前ノ黒狗脊ハ与此一類二種也

（釈）鳳尾草（カツヘレヘ子レス、トラノヲ）

巴戟天（カキノハグサ）莽草麦門冬ニ無葉二種有本邦薬肆ニ云ボウデ巴戟天、ジユズデ巴戟天アリ今薬店ニオウデヲ剗ニジユスデト云偽也不凋草此即本

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386　ガラス使用

○或云本邦之産至冬枯凋故不能無疑非也於凋不凋不拘泥以葉葉為真而可也或向以根色為説則以何為是哉曰以黄白為上紫色最芳矣○於香附下弁有水巴戟此所論者指言麦门冬葉巴戟也同名異物

邦所産ノ葉無巴戟也 ○或以黄白者為上紫色尤
芳香附子又有小巴戟此所謂者（措言）麦門冬葉也同名
異物兼説證冬不枯者不合本邦者接有宿根之
者謂歟　【集】山薢（即真ノ葉巴戟也）
【附録】巴棘（未詳）
遠志（ヒメハギ）近世○鶏（雛）桔梗充之非也 鶏桔梗ハ薺
苨ノ類也 遠志和漢共有大葉小葉ノ二種有江州伊
吹之産佳也 苗ヲ小草ト云花䔰家ニ根ヲ遠志ト
云 大葉之遠志上蔵山雲母坂ニアリ 【集】（弘景曰之
説大葉者也） 畢豆（エヱトウ） 【気味】玲珠
（真珠別名） 蜚蠊（化生虫類、アブラ虫）
齊蛤（馬刀別名） ○百脉根（コガ子バナ、キレンゲ 都
草、コガ子メヌキ） 本邦山野尤多
淫羊藿（イカリサウ）（クサ） 江都染井花肆ニテ「クモキリ
サウ」ト云 加州方言カリカ子草ト云 花紅白ノ二種アリ

不聞水声泥沢悪所不生也　一名毒筌篇蕁師（輟耕録）
仙茅（キスゲ、チクサ）未詳 或ヲミランニ充非也 有二種
可為漢渡唯一種真也 根似蘭根其黒色者皆陣文者也
気味薄不堪用 新抜可用 和又有之但人不知耳
玄参（ナレリサ）（誤久サリ） 武州道観山ニ有 此産尤佳也 和名不知 和
名抄ヲシレリサトアレ氏暫関武州有白花 上蔵山ハ紫花也
【釈】重臺（蚤休別名） 鹿腸（敗醤別名） 須知曰和
漢皆可用但関東産尤佳也 上蔵山ニ生者寅形似
根堅而如木根絶無気味 経晒乾色不変黒疑別物
【集】地蠶（蠐螬一名） ○似槐柳者對生ノモノナリ
地楡（ワレモカウ和名ナリ） 輟耕録一名無名卯 群芳譜一
名玉札 加哉有ヵ池ノ辺ニアリ 一種出高野山中山人呼曰
天乖草 花紅而葉側ニ云 此物地楡之山生也 賀州又有
之近来又白花ノ者アリ 花肆荊萱ヲ名ケテワレモカ
ウト云 甚別不可用大誤也 或云以地楡之粗末灸於磁器則便於加也

安

〔釈〕牡蒙（一名王孫）
〔集解〕水紅（即葒草一名也）和名オヽケタデ

丹参　確ト不知者也一種和ニアリ頌説アタレリ一種京都
二条帝川田ニアリ形状畧似タリ可考〔集〕蛾（カイコ
ノテウ）
紫参（チハノハヾサ）未詳本邦無之先輩充赤山草者
非也然ヒ二種充ル物アリ葉似羊蹄者一種也葉似及已
者是也松岡之説有似羊参者似羊蹄者則是也
王孫（未詳又黄著之一名）松岡曰与卑藕同一物
〔釈〕黄昏（合歓一名也）〔集〕卑藕（カメコ）花戸ニ
テハツユキト云武州ニテハツユリ　紫河車（蚤休ノ一
名）
紫草（ムラサキ）〔集〕蘭香（即羅勒メボウキ）
呉藍（藍花之集解花ノ旋時自可採取）須知曰紫
草多染家所用餘ニ實アリ　紫草茸ト云時ハ茜
出テ四五月ノ時ヲ可用河内国府辺多種之家園植
デ花ノ旋時自可採取也

安

白頭翁（ウナイコ、子コクサ）京花戸ウナイコト云仙台
チヽコト云筑前ニヤリマサイコ又子コ草賀夏ニテチコ花
又ゲヽレニマナイタ大坂ヒメ花京ニゼカイサウ美ノガク
モチ和名或ハヲキナ草ト云非也オキナクサハ閭道ノ麦
門冬也長城外在白川尤多本邦産極テ佳也自西土
来物希也仲景云翻白草是也〔釈〕胡王使者（独活別名）
〔集〕毒懸頭（トウバタ）頌所説非白頭翁　須知曰
白頭翁俗名赤熊紫胡ト云是也諸国方言尤多此茱
從漢不渡故後世方葉用希虫然仲景傷寒之論有白
頭翁湯医不可不備處々山中極テ多シ近来以之充
柴胡誤也与柴胡殊別也
白及（シラン　輟耕録一名雪如来）本草備用一名若蘭紫
花者シラン白花者ケイラン〔集〕扁々螺（松岡曰扁
字衍也扁螺ハセヾカイ一名牙螺）
三七　本邦尤無和名通呼三七也武州深井花戸一種有

白在杉鞍馬
貴布祢者芥
葉也

詳

呼車一三七者綱目所謂三七ト形状異也此者或ハヨメ菌
仙也此三七者今無和集解中云近傳一種草ト云者今ノ
三七也姫ニ所説形畧似白及ト云者不知後所説者本
邦之三七也

草之部三

黄連　須知曰但貨者或欲色好而用金汁黄蘗汁ヲ掛ル者アリ
用者洗去テ可用本邦ニモ多賀ゟ佐ゟ越前之産佳也皆是ゟ来者
也在北山者五加葉也群スレハ三四種モアリ但馬キノサキニ一種
葉有毒者有毒ニ黄連ト云葉ウコギニ似タリ

【集】小雉尾草（ヤマシノブ）

胡黄連（センブリ、トウヤク）和俗センブリト云者非胡黄連小
龍膽也篤信胡黄連ハセンブリニ非ス玄黄連モ云漢ノ書ニヨレバ
唐胡黄連ヲ可用也和ノ書ニヨレバ和ノトウヤクヲ用テ可也本
草石姫ニヨレバセンブリ也須知曰和漢共ニ用ユ漢ハ気味共
和也和ハ気味烈也和産異漢渡以形異有疑其ハ実同種也只

国土地異漢和別也稲氏曰蒼朮漢和異ルガ如シ

集　鸐鴿（クロツグミ歟未決是非）

黄芩　和ニ無一種花店ニ和黄芩ト云アリ有大毒即是博落
廻也和名（サヽヤキクサ、又シヽヤキクサ）土人チヤヒバギソウト呼ブ
秘物也
甲氏曰和俗所謂黄芩者白屈菜之類也別ニ漢名アリ須知曰
有漢無和一種無偽雑又以南天燭根偽造而売アリ可択

秦艽（未詳）漢ヨリ来真也シヤウヽバカマニ似テ根左右ヘ
モジリタル者也農耕録一名産家大実須知曰有漢無和

柴胡　鎌倉柴胡真也川原柴胡アリ其鎌倉別也本草原
始之翻白草一名鶏腿児即救荒之委陵菜綱目翻白草
仲景云白頭翁同物也又一種銀柴胡ト云アリ非白色之義自
銀州出故也於薬店銀柴胡ト云ハ茵蔯根也津島氏曰
又有梅葉柴胡鈴柴胡梅葉柴胡ハ徐長卿也

【集】葉似斜芸蒿葉云々松岡曰此福寿草乎恭所説之芸
蒿異叙名芸蒿別名也典籍便覧所説之芸蒿也本艸

ガラス使用

逢原云凡方書大柴胡者大葉柴胡也即綱目之竹葉也曰小柴胡者小葉柴胡也即綱目之韮葉也○廿子蒿柴胡一名

前胡（ノダケ、ヤマセリ、ダニセリ）和漢共ニ真也 和一種也 漢ニ三種アリ 本邦和州産ノ葉有鋸歯 時珍曰木之物合又
〔集〕（諸説紛々難分別 炮炙全書可考也 時珍説佳也）
当帰葉前胡一種アリ 葉肆者採収時愚軽虚而性悪香気ナシ可自採択

防風（ヤマセリ、ヤマ人参）和漢共ニアリ本草原始図佳也 筆防風 濱防風 削防風ノ三種アリ ノ白川ノ産 筆防風ニシテ真防風也為上品 濱防風ハ珊瑚菜ト云者也 一名石防風是字 剛防風ハ薩产ノ防風 木防風トモ云 即防葵也 別種ニテ非防風 共ニ不可用 救荒ニモ有図可考 〔集〕蒔蘿花 香也 小茴 珊瑚菜 ハマバウフウ 八百屋バウフウ

獨活（ウド）松岡曰本邦葉店以一品為羌活 独活者拠大明説宇曽然 独羌同別物以一物為説者非也

一本香川子曰ヲ修庵先生曰ニ作ル

獨

堀子曰羌活一類二種 中国所産之物為独活 自西土者為羌活 本経ニハ独活一名羌活 別録以来諸家為一類二種
香川子曰独活元只一種 然以宿新根分 羌活宿根性味得劣 故今定以新根呼羌活者為独活充用也 ○旭按
羌活者京師嵐山之産 気芳烈而佳也 其外越後高田ニ多シ 俗呼シ、ウト、或ハイヌウトト云 越後加茂ノ土人呼サノーキモノトモ云 田ノコヤシニ用ユ
〔集〕青麻（アサ）
土当帰 即水白芷也 救荒本草所説者與此形状異 此物猶也
都管草（八丈草、アシタバ）旭按 黄ハ○八丈草ト云モノ 此草ノ汁ヲ以テ染ル字 アシタハノ考ハ稲氏之説也

鬼

升麻（アハボソウ、ミツブデ、アハモリ）凡有三四種 堀氏云 升麻種類多シ 本邦称升麻者 雷音升麻也 鶏骨升麻真物也 花店呼水筆帝升麻者 即鶏骨升麻也 葉店之品ハ海根ノ根 偽宜辞 審
〔集〕鶏骨升麻 和名水筆ト云 花店ニテアラハホト云是也 原始所説 黒臉升麻也 ○ 洛新婦小升

麻也和名トリアレ別ニ一種アリアハモリト云者アリ
苦參（クララ）京野不択処多生仙台ニテキツ子サヽゲト云
黄花如豆花結角 ○〔釈〕苦甘識（イヌホヽツキノ一名）
白鮮（未詳）コマツナギニ充非也一種小草アリ根腥気アリ按
菝ノ類乎以木槿根充之非也本邦未決有無以漢渡可棄
用槐花白鮮 稲氏嘗有考状形之図ハ本草蒙筌可也一
本和名ハニルクハツカウ、
延胡索 無和若水考アリ花戸ニテガンセキト云者也然モ非
也カンセキハ黄菫ト云者也今渡ノ延胡索ト形状別也
貝母 河内国ニテメグリワ或メグワイト云是也凡三種アリ 頌
説ニ無葉青似蕎麦無葉ト云者有然𪜈葉用ユモノ 郭璞尓
雅註白花無葉似韮者アリ玄達本此説一種考アリ
〔釈〕苦菜 苦買黄苦子 竜葵敗醤苦苣皆有苦
菜之名 〔集〕頌引郭璞尓雅註所説者山慈姑歟
顧元交本草彙箋曰象山之貝母大貝母也

山慈姑（アマナ、ムキクワヘ）時珍所説者ムキクワヘヲ充又ア
マナヲ充麦田中ニ多生古人説皆石蒜也此釈名皆石蒜ニ可有當
也 漢渡未詳 時珍所説者 姫路方言水筆ト云者也 又一種蔵
器ノ説ノ車前無葉ノ山慈姑ニアテルモノアリ 京妙心寺辺ニ有
〔釈〕金燈 鬼灯檠（此二物キツ子ノカミソリ） 無義草（シ
ビトハナ） 〔集〕團慈姑（未詳） 試剣草（秦王試
剣草出名条） 須知曰山慈姑種類多古人所用石蒜根也 独
至時珍以有根顆辨充之 和名曰甘菜也 然臞仙神隠傳紫
金錠方下花似花与葉不相見故見名無義草之説 石蒜根
子今從漢者偽真不詳
石蒜（キツ子ノカミソリ）俗名シビトバナ一名天蓋花 京師ニテノニ
カンサウト云 江州ノ俗マンジユシヤケト云 筑前ニテノステゴ花ト云
姫路ニテノクサレハナト云 鉄色箭花ハシヨケモミ色也 一名一枝
箭即 箕水仙也 花大小ノ二種アリ 白花ノ者有之 才図会銀燈
檠ト云

槿
槿
国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』　請求記号 特1-3386
ガラス使用

水仙　今俗ニ所称ノ水仙花是也単瓣者名金盞銀臺重瓣者名玉玲瓏出廣輿生八閩宋雅名鵝蒜一種佛休国ヨリ襍袙ト云者出香具ニ入未詳　陳眉公太平清話名雅蒜或云水仙未開時以紅点鳥頭花開則為紅花（秘笈之中）

〔集〕堂韻（キヤシヤニノ雅ナル名ナリト云フ）

白茅（ツハナ、チガヤ）春初未開内茅針ト云已開テ白茅ト云　萱古訓ニスゲト云誤也今テ改テカヤトス　渣芹ハタケセリ　葉ニ三脊アルト云者若水説ニチモトノスヽキト云者也　茅花ハツハナノ穂也　茅類甚ヨタ茅草ヲ称シテ入薬用者ツハナニ茅根ツハナノ根也　石茅芭茅ハカヤ也　名同物異宜詳

〔集〕菅茅（ミジカキスヽキ）黄茅（セイノタカキスヽキ）香茅（未詳）芭茅（イトスヽキ）渣芹（ハタケセリ）

地筋（即白茅根乎）　芒（スヽキ、カヤノ総名）　石芒（チハナ
石中ニアリテ稍一二尺斗）

龍膽　和名クタニ山竜膽春リンドウニ（春開花者即）不入薬用一名石竜膽薬用ニ佳也又草竜膽薬用尤佳也秋開紺花冬後結

○杜衡（カン アフイ）（京花店サイシント呼ブ）

〔集〕天仙子（ロウト ウブシミ 實）

木細辛　未詳

本草作 香川氏曰

先生曰

子即枯俗子苗枯テ草竜膽ト云又一種石竜胆蔓生ノ者アリ俗ツルリンドウト云好テ深山樹陰ニ生ス秋紅実ヲ結フヨモトノ実ノ如シ不入薬用

細辛　時珍二所説二物也　松岡曰杜衡細辛一物也有杜衡乱細辛之説諸家因襲而不正從今為二物不知杜衡葉莖細辛是根名也○堀氏曰本邦佐渡秋田之産佳也京加茂葵莫細辛也俗ニモロハクサト云二葉トモ云フ者也○香川氏曰細辛根極細味大辛佐渡極而良粗大而味不大辛者皆杜衡也一種チヤウシヤノ茶ノコト云アリ下品也別ニ馬蹄香ト云有足モ下品也

○及已（フタリシヅカ）　猪牙細辛（オホアメバヽ）

鬼督郵（ヤクルマ）江州彦根方言ハガマカサナ對生賀見アリ偏生京都ニアリ　極テ葉六アリ

徐長卿（フナバラ）　即梅葉柴胡花店鈴柴胡

白薇（二種アリ新校正ロクエンソウ）一種有フナワラ一種有

白前（シラヤギ）トラノヲ秘物也ロクエンソウハ救荒ノ白薇也

草犀　一種水中ニ生スル者アリ水木犀ト云可考
釵子股（薬物石斛大ナル者乎）　金釵股（落ノ藤一名）
吉利草（未詳）【集】牛李（未詳）　蒔蘿花（小茴
香也）　珊瑚菜（ハマボウフウ八百屋ボウフウ）
百両金　此即岳奴理也前充佐無呉是也和名セリツウトニ云モ（ンツリヤ）
ノカ　雲也
硃砂根（未詳）　紫金牛ノ重出乎　地錦羅（未詳）
碎𤭛（未詳）　チクサイ　一本ヘニノヲ　チクサヒキ
紫金牛（アカダマノキ、ヤブコウジ）　佐渡俗呼曰長者之
菓子江戸ニテハダチハナト云　即春盤ニ用ユ
拳参（イブキトラノオ）　エビ子未詳　近来出一種三才圖會所
圖佳也
鉄線草（ニシキサウ）　救荒所説小虫児臥草是也
金絲草（未詳）　或云即蟹殻草是也○「金絲煙ト云ハキザミ
タバコ」

附方　五葉ノ藤（烏斂苺一名）

草之部　四

当帰　本邦此物多シ大和山城産即馬尾当帰也丹後越後即
鑱頭当帰也鑱ハダイコホリ也鑱鑱蚕皆通用江州伊
吹山所出者馬尾当帰也須知曰和ヲ好トス大和佳也越後次之
【集】　蒔蘿（イノンド）　草当帰（当帰ノ下品乎）
芎藭　大葉小葉ノ二種アリ蘼蕪根也次峯芎藭蕪名条者
非也大和山中所出者小葉而真物也雀脳芎是也
方書曰川芎者小葉也芸店曰川芎手芸藁本者非芸藁本是則大
葉川芎也撫芎馬銜芎是也越桃ハ山梔子別名或説ニ馬銜
ヲ大葉トシ雀脳ヲ小葉トス非也皆小葉ノ説ヨシ須知曰和漢
共ニ有皆可用和有二種大葉小葉也
蘼蕪　即小葉川芎也説見前
蛇床子（ヤブジラミ、イチ
クサレ）　古説ニヒルムシロトスヒルムシロハ眼子菜也
藁本　漢渡二種アリセンデ。シャクマデ。センデハ大葉川芎也

不代用和産ヲノニンジンニ充確トス不知一種充ルモノアリ京北山ニアリ（自西土来者俗呼曰赤熊手真物也川芎手芎菜本者即大葉芎也）

蜘蛛香（未詳）又云近来出此物未決真偽也東都ニ充ル者アリト云

白芷（ヨロヒクサ、ムマセリ）クルマキリスイ久チテノ二種有実ハ一物也クルマキリ上品也信州ニテサイギト云城州長地ノ辺ニ多有種ノ香気殊ニ佳也和漢皆真也採収之法同前胡

芎藭（カヲコハナ）本邦信州及大和宇田産佳也山芎藭是也 家産ト云ハ
藭唐呼ノ草芎藭詩経芎作匂一種鶏孫ノ和名ヲカナヨ花ト云不可誤也信州出者偽物ヲ多切可試切口黒色ハ悪シ
須知曰芎藭和漢共ニ有皆可用山産家産又皆可用古人云山産花単瓣ナル者為薬用花美ナル者根悪シ備人甚好飾華者内必不好此何物性暗也人与草不可混況波内外彬々者哉花美則根又佳也又漢与和以形状異ハ有疑人和ハ軟漢堅漢ハ蒸シ堅ク乾シタル者非別物和直ニ用ル故也又白芍薬ハ出信州者佳也然レ𪜈可餝択用多偽雑其偽物山錫杖根也即本草ニ所謂草芍薬也形雖似性味遥異也割制衣色変灰色不可入之薬用又医方ニ分用赤白有説不必拘

牡丹（フカミクサ、ハツカクサ）（一名黄実 ヨニバス、水フキ）ト云説アリ）須知曰和可用不家園産花美者尤佳也説見芍薬条下

〔集〕樓子（ヤクラサキ） 山牡丹（京貴船アリ）鶏頭子 附録 鼠姑（未詳或即牡丹

木香（ヲヽウクルマ）南木香上品也 〔釈〕青木香（秘也可考者也）即馬兜鈴根也和名ジヤカウ草 又ムマノスズ

木香漢渡為上品和産処々有之真物也然𪜈気味劣之時可通用ワレモカウハ是ニ非ス地楡也不可混

〔集〕木香花千瓣之薔薇也出花史及花鑑 拾芳采鏡

甘松香（未詳）皺手之甘松ト云有紫花開ク山ノ崩レタル跡

○槿

作 一本甲氏云

二生スル者也田舎ニ和甘松ト云者アリ是カメコソサトモ云テ別
物也甘松或云備後山中有一種ニ草葉似茅有香氣此物
殺若水有考
山柰（未詳）漢渡ハ生姜ヨヘク如クニシテ未氣香油ニ入テ用
草ニスル也マレニ有酉陽雜俎之説誤也水仙之集解ニ有之
草店ハ莫也
廉薑（未詳）長崎ニ一種大生姜ト云者有此者ナ又一説則山
柰也出有各条一物也
杜若（ヤブメウガ）カキツバタト云非也カキツバタハ燕子花也松
岡曰杜若良姜二物以葉根分葉為杜若根為良姜也
山薑（即杜若也）〔集〕芳芷（即白芷也）
高良姜　松岡曰伊勢ヨリ来ル伊豆縮砂ト云者良姜実也
桜高良姜　実曰伊豆縮砂不可妄用也使人墜胎也或
云草店伊豆縮砂ト云者即紅豆蔻也
〔集〕朱槿花（ベニムクゲ）

俱

豆蔻（未詳）蛮物也　〔釈〕草果（ヨ実言今テ父ニ草果ト
一種別物也大者草果小者豆蔻也）〔集〕芄蘭（ランノ
一名出詩経）　斑蝥（ヘコキムシ）　鸚哥（インコ）篤信曰
唐音也
和漢俱莫也　和産ハ根実也乏時可通用葉即杜若也本草言誤以
杜若良姜為二物而剰出一本草家強充蘘荷誤也杜若辞
文選之杜若良姜此実名伊豆縮砂本草征豆蔻也庸醫
不知而代用縮砂仁此仁有毒触墮胎妊婦尤可忌也
須知曰草豆蔻肉豆蔻此四種番国ノ産也皆可用無僞南
方所産也北方不殖
白豆蔻　蛮物也本邦絶無之
縮砂密　無和漢渡一種也無僞　〔釈〕白蘞（シレロチ也）
〔集〕栗殻（ナヽコ）
益智子　無和蛮物也　須知曰漢但一種無僞南方蠻土所
産北土絶無之

剛為姜黄
柔為鬱金

蓽茇 無和産物也或云胡椒之類

蒟醬（キンマ）長崎ニアリ蛮国ニテハ客ニ出シ菓子トス

マタヽビ充非也マタヽビハ木天蓼也

補骨脂 蛮国也蓖麻ニ充ハ非也近来マキテノ処々ニアリ即

破故紙也

肉豆蔲 無和産物也

姜黄（ジクウコン）以鬱金莪朮姜黄一種也軸ハ鬱金ト云姜黄
也色赤何培元本草類纂必讀云根大者為鬱金小
者為姜黄

松岡曰琉球之産上品也頌説多誤時珍説蟬肚鬱金真鬱
金也 集 匂蕉（即ジジミシャウ也）

鬱金或曰鬱金物也故謂之黄ハ流出詩大雅鬱金琉球
国ヨリ来和又種之葉居頭ウコン軸ウコンノ二種アリ非二
物以形別之耳蟬肚ハ末魁此頭鬱金也旁生者軸鬱金
也軸者形似姜故充姜黄按姜黄鬱金本一類別有片

子姜黄今ハ渡無之蟬肚者為鬱金似姜黄者為姜黄
姜黄ハ未詳 何培元本草必讀有辨析之黄ハ者鬱金赤
者姜黄青者莪朮大抵一類ニ而三種也近去華舶載来者
暹羅鬱金ノ色帯赤サ有油気此何培元所謂染色用不
入薬者鬱金自琉球来者黄ニ無油気入染家之用此
何氏以充姜黄者也如本草求真所説則反之又張璐玉本
草逢原以蟬肚姜形鬱金姜黄ヲ分テ不分其油気有
無終無帰一之論

蓬莪茂 茎葉鬱金ニ同而葉背毛茸アリ根色萌黄色也
武州染井ノ花肆京鷲峯官薬園仙呂皆有之或云根似鬱金而
深緑色者莪茂也黄者鬱金也須知曰漢和共ニアリ只和極テ稀
也形状似鬱金似姜黄有毛者是也茎葉粗淡無光沢為異
帯青黄者也

荊三稜 古訓ミクリ 藝花家ニテミカトスゲ又ヤリカマモ云伏見
方言ウキヤガラト云又ヤガラモ云荊三稜黒三稜草黒三稜ノ

三稜アリ草三稜ハ伏見ニアリ又豊後辺ニアリ

〔集〕紅蒲（即蒲黄色）　雲苗（陽起石也）　蔘茂（証類作鏡蔘）　蔘草（草三稜乎）　須知曰和名ミクリ和漢共ニ有リ形円有髭鬚毛者真也形扁而成片者ハ共ニ又蒲根ヲ以テ偽造ス本草ニ京姑ニ出図而京三稜荊三稜鶏爪三稜黒三稜ノ数品ヲ挙ケ今テ詳スルニ京三稜荊三稜鶏爪三稜只ハ是一種也鶏爪ハ其ノ根芽未長時以名之救荒本草所説黒三稜北国多シ京師伏見四辺水沢ニアリ京姑所図ヲ以テ此物種類相似易混雑辨薮蓮根碍子苗其種類而不入薬用三稜字古来ミクリト訓ス。

莎草香附子　時珍説莎草香附子草一物ト見タリ莎草此類ノ俗名香附子有独顆連珠二種香附子有香気而似附子故也藆曰莎草江州八百嬾ト云処ニテ笠ニ作ルハ山莎香附子ト云ハ俗称也一家言中ニ草三稜ヲ香附子トス秘物也

〔釈〕夫須（作笠者也）　續根草（孝藥ノ巴戟即連珠ノ者也）須知曰結一顆者真香附子也連綴二三五顆者此救荒所載莎薮根也又沙地者也

瑞香（ヂンチヤウゲ）有紅瑞香白瑞香紫瑞香三種一名睡香一僧山中ニ睡ル暗香ヲ感シテノ驚ヰシム故ニ名トス但馬方言ハナゴミヤウト云或云枇杷ゴミヤウ木今有者根梅葉者也柯葉之者稲氏説ニ花肆ニ称スルミツマメト云者也毬毛ニ案枝者二種共未詳

茉莉　昔ハ不知今琉球薩摩ナドニ出茉莉花ト云ニノ女ノカミサシニスル也黄白ノ二種アリ貝原茶蘭ニ充ルハ非也茶蘭ハ別ニ府志考アリ茉莉俗ニモレント呼者即是也又モリト云蛮語也

〔附録〕素馨（花紅ノ者未知）　松岡云即茉莉ノ蔓生乎酉陽雑俎云以衆八仙代素馨衆八仙北国土人呼之加伊馬ト云　且

爵金香　時珍意爵金与爵金香為二物近来稲氏曰爵金香即爵金也不可分二物恐爵金未開者集解之説何物ゟ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386　ガラス使用

ル二種不知
茅香（未詳）若水由是一種考アリ集解 印香（セヽコウイン）
ヲスヘタルモノナリ）白茅香（未詳）
排草香（未詳）古者葉ヲ渡ス近来根ヲ渡ス物理小識有芽
心苔ヲカンシヤウ此形状ニツイテ可考 附録 瓶香（未詳）
耕香（未詳）
迷迭香（未詳）【集】幽杸（カケボシ）
藒車香（未詳）艾納香（菜苔也）甲氏云梅松樹皮有縁
衣香和俗呼之曰錢苔後世謂之艾納与此別也
【集】都梁（即白芷也）
兜納香（未詳）線香（即センコウ也）【集】唧筩（水ハシキ）
三大王（未詳）連喬（即連翹也）龍掛香（ツリセンコウ）
角茴香（八角茴香也）
藿香 有青葉藿香土藿香二種 土葉一名埋藿香 青葉
者香気芬烈而尤葉用 和藿香者山鳥草也不堪葉用

先充青葉非也」馮真伯月令廣義曰一本此三字藿香草
即堪薬用ニ作」即和藿香也 損軒曰今此説是也 和産
不入薬用救荒之香菜同或云カノコ草ト藝園家称和藿香
【集】鷄舌（丁香也）柳枝（サシキ）須知曰埋柳枝者雑
支而不可用入茹葉ト云
薫草 藝花家呼ワレモカウト云 地榆ワレモコウト云 薫草
ハ香草ノ通称 蕕者臭草之通称也 出左傳 此内ノ形状ハ零陵
香之方也云達 麝香草ニ充 藻豆ハ豆ノカス也 今云アラフ
イコ也
零陵香 天台山ヨメシ マメデ、ムキデノ二種也
蘭草（フジバカマ）古説ニアラヽギト訓ス非也 アラヽキハ木蘭也
花香芳者名蘭花 葉芳者名蘭草 葉用蘭草尤佳也
楚辞九宛之蘭則真蘭 孔子家語王者香ト云也 丹渓ハ幽
蘭ヲ用東垣皆真蘭ヲ用 蘭花ト云ハ幽蘭也 蘭ト云ハ真
蘭也 摩ト蘭 建ト蘭 春蘭 独頭方也 椅蘭 一名樹蘭 木蘭

也山蘭一種アリ　楊升庵曰如蒲萱者此説又幽蘭也
甲氏云楼有雌雄々曰建蘭雌曰障蘭也雌雄者以葉之大
小分之　集解又有一種甚根似茎之方葉或云此小沢蘭葉李
果用之　震亨誤用花葉非也　蘭有二種入薬用者蘭艸
也一名燕尾香而花無香此謂蘭草一又有蘭花一名幽蘭
建蘭者此人家盆翫ノ処咸有花黄ハ而香葉似麦門冬葉者
此葉無香不可入薬用以其名同今通以幽蘭為蘭大誤矣
〔集〕　蘭花（即幽蘭也）　蘭香（ラコクノ一名）
鶏蘇（即水蘇　和名山ヲガラ）　小沢蘭（或云即益母草）
正誤　猗蘭（即樹蘭也或云保蘭出相州府志及花鏡）
馬蘭（コンギク）　松岡曰称馬之蘭者野為鶏也何限紺之為之一
品　時珍曰大者為馬蘭此説非也馬者賤之辞非大小之謂
也　〔集〕　饅餡（マンアン即饅頭ノ餡也）
附録　麻伯（此附録当在於沢蘭之後）　益母草（元小
澤蘭非也或以為小沢蘭俗名カ）

香薷

香薷　有長刀香薷石香薷之二種　長刀ハ入薬用　時珍所説
之石香薷者生於石間者也　長刀香薷ハ穂長ク斜ニ所一辺著
紫花
石香薷（イヌカウジユ）
爵牀（イヌ香薷）稲氏曰前説エノキグサニ云ル非也後又イヌカウジユ
二元　〔集〕　蒨根（即茜根也）
假蘇（即荊芥）　〔釈〕　落藜（アヲアカサ）　〔集〕　石荊芥
（未詳）　胡荊芥（未詳）　黄鰭魚（カワキス一名黄顙一
名黄揚魚）　蜀荊芥（未詳）
毒車使者（アカバナ（じやしやうこ）ノクチナハジヨウゴ（ゲンノシヤ
ウコ）之二種アリ以茎赤ミシヤウコ名秘有鞍馬山中者上品
也ミシヤミシヤウコ真物也
薄荷（メクサ、ミツメハコ）竜脳薄荷菩薆薄荷二種アリ
方書金銭薄荷ト云アリ是ハ葉丸キモノナリ古今医
統有糸竜脳薄荷ト云物別物也竜脳薄荷上品也菩薆

生者ツル薄荷也有毛無毛者同物也野呂氏曰蔓生薄荷即是連銭草也

積雪草（ツボクサ、ウツボクサ）頌引陶陽雜俎之說今ノ云血止草也俗云ヒル草也非積雪草　〔綱〕連銭草

救荒野譜地錢児即連錢草（カキトウシ）

胡薄荷、地錢草、連錢草三物共ニカキトウシ

蘓（別録）　紫蘓（食療）背面共ニ紫色物為上品チリメンシソト云花蘓囘々蘓是也面紫背青者為下品　和俗

〔集〕大蘓（未詳）　囘々蘓、白蘓（即水蘓也）魚蘓、山魚蘓（未詳）　野蘓（カタメンシソ）花紫蘓（チリメンシソ）

須知曰紫蘓子和可用但貨物多覓実雜入可択用甚難弁家園二種而牧其実不若也

荏（エゴマ）○水蘓花広云竜脳薄荷本草蒙筌一名荽荷

和名野シソ　〔集〕葉似白薇者（即救荒ノ白薇也）

竜脳薄荷　須知曰此物ハッカト別也本草一名水蘓、方莖麻葉形状似紫蘓莖葉色蒼白ニ氣甚芬香好生於山涯水濱一医家常ノ薄荷ヲ以テ竜脳薄荷トナス誤也葉肆無之宜自採收

薺薴（ヒキヲコシ、ヤマハッカ）附録　石薺薴（未詳　一本作タルマサウニ充ルハ非也）須知曰和名ヒキヲコシト称ス一名山薄荷葉生而辛薫気烈ハ猶好食之古人薄荷猶疑指此歟和方多用之沙参ノ一種薺苨ト混称スルモノアリ宜弁別

草之部　四五　隰草類

菊（カラヨモギ、キク、雅名マサリクサ、秋シヘノハナ）花ハ二黄色而甘者為上品入薬用菊之品尤多シ劉蒙菊譜史正志菊譜詳也名類雖多不過十種尤記　千辨（センヨ）

單辨（ヒトヘ咲）　重辨有心無心　蜂窠（丁字サキ）　筒辨（クダザキ）

佛頭（モリアゲサキ、釈迦之頭ニ似タルモノ也）　樓子（ヤグラサキ）　旋心（シンノキリヽトヲサマリテヨドリノ如キモノ）　珠子菊（本草會始云カンキク又金目ヌキト云一名万鈴菊）　一種小花開云々（即本草ノ小菊也）

〔 〕ハ未詳

十五行

平野版

ガラス使用

「」ハ朱注

集　茼蒿（シユンギク一名カウライ菊彦根一名ロウマ）
野菊（ノギク）三種アリヨメガハギ、キンクワ、ヤマギク又別ニ
ノギクト云者アリ此殷ハ菊ノ野生ナリト云藏谷之説如馬蘭ハ
ヨメガハギ也或云救荒本草雞腸児者与野菊異其性時珍
所説者ハマギク也　稲氏同
菴䕡（ヒメヨモギ、ヒキヨモギ）京白川山有大小二種アリ　對　再云ヒキヨモギノ訓古訓ニ非也
薺頭蒿又此一種　附録　蘆　蘆未詳
蓍（メドギ、ハゴロモ、ノコギリサウ）或曰蓍花有白赤紫
三色紫カンキ草ナルヘシ為上品ノコギリ草カンキ草按小者　一本甲氏曰作
ハゴロモ大者ノコギリ草越前ツハイ坂鎌倉鶴岡日此物
多シ西陽雜俎云則神草救荒本草之鉄之草也大者紅花
ノコギリ草小者白花ハコロモ草也　集　荊蒿　甲氏曰
按荊者曰牡荊蒿者薺頭蒿字
艾（ヨモギ）俗モグサト呼ブモヘグサノ畀称也松岡曰時珍所説　一本松生云ニ作ル　子
之蘄艾者本邦有之云江州伊吹山中及加州俗呼テ文マヨモ

ギト云江州之俗呼テイブヨモギト云是綱目所謂九牛草ナルヘシ
状肥大而氣味野艾ニ劣ル故灸火ノ充用野艾為上品閲本　甲本
草新編之説大佳也據氏曰伊吹山之産為上品蓋然官艾多　一本作ル　著者
而真物不足於賣艾以九牛ノ草相混雜徒土人之語用野
艾　附録　夏臺（未詳）疑艾之重出字
須知曰有二種常ノヨモギノ外ニヌマヨモギト云者アリ本邦
殊多与江州伊吹山之産同此者即本草所謂蘄艾也方
家之通雅云九牛草ト云又此物也別有蓬和俗艾与蓬誤
蓬非艾類野生沙地花如菊一処攢生而後成絮者也不入灸
治薬用松岡説詳於須知可考
千年艾（可考）一本云イヌヨモギノ類ニ而葉テモメバクタ
ケルモノナリ　合両字
茵蔯（カハラヨモギ、南部方言イヌヨモギ）青蒿黄花蒿　同　蒿
茵蔯之三種月易混茵蔯ハ宿根ニシヘノヨケイ出ルモノナリ
按茵蔯之品甚多有号中茵蔯山茵蔯者即石香薷

按一本甲氏會誤曰ニ作ル

也又有借爲茵蔯綿茵蔯鷺鷥茵蔯者臯茵蔯
也又名江南茵蔯者即水蘄也別種有帝鐘茵蔯此与
茵蔯蒿形状殊異也綿茵蔯蒿類江寧府一種者
者脱本草茵蔯類（須知曰生宿根春初其色蒼白
皤々然而著地生入夏長大時易混青蒿老青蒿者
一年而枯此与從宿根生別也青蒿ハ俗ニ河原人参ト云
又野人参ト云者是也其茎葉深緑色極而細切甚芬
藁蒿也一種相似而茎葉帯黄色者有本草曰黄花蒿
易混製衣神麹二種倶採可用
蓬莪蒿者（柳葉ヨモギ） （集）
青蒿（ノニンジン、カワラ人参）葉茎深緑也葉極細而芬薰
也入神麹者是也
黄花蒿（クソニンジン）葉黄色 色 クリカタノ有者也 葉ニ 斜紋アルハ斜
蒿也 青蒿下品也一種甘可蒿可秀 牡蒿ノ一名重鬱蒿也
白蒿（カワラボウコ） （秋） 蔞蒿（即莪蘆蒿之一名也キ

✕ 熱血ハ獸血ニ
同蒿ニシュンギク キウライギク

ツチマユハキ）◯詩云蔚（ホ）者佐為川采由ノ濱ヨリ俗呼曰白蒿（ニロヨモギ）
又曰濱蒿也（ハマヨモギ）泉雅刑昺所謂似艾白色即此物
角蒿　茶説ニ云（旧）蘼蕪ナデシコニ充ルハ非也救荒本草猪牙菜
即是也救荒廩蒿与角蒿為二物松岡曰似蔓菁云々
此東武之産也黄ハ花蒿之一種斜蒿也
廩蒿ヨメガハキニ充非也似小薊者云ナ以テ可ユ丈
馬先蒿（ミヨガマキク）江為彦根民呼テノコギリサウト云フ
陰地蕨（ハナワラビ イヌワラビ）蕨与薇同（医學元戎作陰地蕨）
牡蒿（ヲトコヨモギ）茎硬ヲ取テ高齋流ノ蓍ニ用（実ノ
ナラヌモノニ） （集解） 太多ハサキノヒラキタル皃ハ
九牛草。或云時珍曰以此為蘄艾誤者及此時珍誤也
↑ 茺蔚（メハジキ即益母草）或云本邦ニ米虎呼曰勝子者
益母草之実也胡麻ト同名異物也（集）✕大麻（アサ）
質汗（ミヒラ）和俗云此物汗也殊誤以諸香漫獸汗
作之詳綱目

同蒿 シュンギク、ツマクレナイ カウライギク
一 漫 八

ガラス使用

附

茺蔚子又名巨勝子 巨勝子円用之非也 巨勝子因ニ八者本用黒胡麻不可以同名混

鏨菜（益母草ノ白花者也）

薇蘅（長良草秘物也）出李固 大少二種アリ 形状似茺蔚有毛 形白頭翁ノ如シ 茎ハフキニ似タリ 赤文アリ 有汁少黄也

無心草（未詳） 下ゲル

夏枯草（ウツボクサ） 古今医統曰血見愁救荒本草芨枯草ニ出 白花不見本草 ウツボ草也 可考本草綱目之者佳也

正誤 臭蔚草（白花茺蔚也） 一本ナシ 須知曰本草入夏枯ルト云 今鞘草（ウツボクサ）或以不枯非真トスル者アリ 此不詳審也 此物新苗已生而旧根枯 此新陳相代也 入夏枯之説能合真物也 不可疑 一種救荒本草所出夏枯草ナアリ 次第之 此紫花者第一種而恐非真夏枯草 且和邦古ヨリ

用鞘草（此物真臭也）

劉寄奴草（ヲトギリサウ） 有三種、然四五種モアリ 保升説苦薏ニ近キ菊葉也 頌説柳葉也 今多在時珍之説 艾蒿亦葉也 秘物也 又有二種 全手桃ノ者アリ 蔓生者アリ

〔集〕 金絲梅（ビヤウヲトキリ）、クサビヤウ

曲節草（ハイトリグサ） 一本ニ是文ナシ 和名イヌゴマ 茎青而一寸許ニ節アリ 胡麻ノ如シ

麗春草（ヒナゲシ、ビジンサウ）

旋覆花（ヲグルマ）ハ千瓣者九曜草 在沢者狗舌草「旋（一本ニ是ナシ）トニ云スヘテケヨリサキ也」 是ハ単瓣也 一名盛椹（救荒本草）一名旋覆花 一名金沸草 旱草瓣ナ葉二種アリ 本草綱目ニハ旱瓣佳也 本草諸書旋葍与旋覆音同ヲヨスヘテヒルガホトス 誤也 時珍綱之説詳也

青葙（ノケイトウ） 家園之産甚多シ美也 雞冠 雁来紅之種類

麦榴花（未詳）

附録 桃朱術（ムラサキ）

十五行

平野版

ケマン）　天美草、思萱子（共未詳）

雁来紅（ハケイトウ、ノケイトウ）青葙花有紅黄二種入眼科ノ薬遵生八牋云一名還少年、十様錦、枝頭乱、苗葉有紅紫黄緑四色故名雁来以雁来色嬌紅老少年至深秋脚葉深紫而頂紅少年一者頂黄而葉緑収子撒於糠熟肥土中如毛灰蓋之恐防蟻　二月即生

鶏冠（ケイトウ）　扇面鶏冠（花ノサキ平ナル者）　二嬌鶏冠（サキワケ一名、二色ケイトウ）　帚子鶏冠（ヤリケイトウ）カラケイトウ）　寿星鶏冠（チャボケイトウ、矮鶏冠）

瓔珞鶏冠（外ヘヒラく上ニ咲者）〔集〕莧実　枇麦（ニヒナムキ）

今俗ニ鶏頭ト云誤也鶏頭ハヲニハス也）鶏冠花　和名ケイトウ有紅白班之数種并の葉白花者殊多功用黄ケイトウ相似別也今以黄ケイトウヲ有誤白花者宜詳審

紅藍花（ベニバナ、クレナイ、雅名スヘツムハナ）宜択用新花鮮明者其搗成為餅称銭花者経製法其氣頓劣

只可入染家用不可供薬用近来番舶所載来者サフラントス云者アリ則番紅花也一名泊夫藍一名撒夫卯是以蜜末制成紅花者也能治痘瘡瘻有効痘家焼之

番紅花　本邦ノ俗サフラント云サンホウロニ（撒法郎）ノ虎音也紅也末国之

燕脂（ウツシベニ、カタベニ）一名胭脂　〔集〕含苞（ツボミ）

落葵子（ツルムラサキ）　山榴花（アカツヽジ、フカツヽジ）

胡燕脂（ニシヤウエンジ）

大薊（山アザミ）葉末ニトラファリ　小薊（サワアザミ、ヒメアザミ）マユハキ　鬼アザミ）　〔救〕虎薊　馬薊（大薊ノ救名俗ニ云　猫薊　刺薊（小薊救名）鶏項草（氏一茎一花ノ薊　薊ノ種類詳見証類本草ニ各条

續断（ヲドリコサウ、コモンウハナ）回春所載之續断者即大薊根也　〔集〕弘景所説桑上寄生者非続断乃桑寄生又云時人続断主金瘡是即接骨木也

△庵貴布祢山中花白或淡紫色

◉旁ノ公羽草
牛房一五二

又云䕡茹又有續斷是非真物別物也恭説真
物也頌説又續斷按今草此者有四種真ハ今ノ
ヲトリコ草ノ根也証類ニ出方莖麻葉者是也從漢
來者皆大薊根也二物之根相似但續斷根細小薊
根長大多岐故舊者僞之氣味大異續斷根味
甘薊根帶苦味續斷新苗根不堪用宜尋求宿根
堅実者新根絶無氣味不堪用本草續斷集解
極混合而難分明其節斷皮者云棄寄生也又接骨
名續斷皆以為續斷非也近來漢土所渡者皆大薊根
也自明朝方書倣用不正之宜自採用也◉

續斷

苦芺（ヒメアサミ、トチナ、サワアサミ）即救荒泥胡菜也
偣（呉人呼中国為偣）〔集〕造化指南云葉如地黄味苦
初生有白毛（地膽草似苦芺無花実白毛）或云是即キク
ル草ノ
漏蘆（タマボウキ）此品有七種當識別〔釈〕野蘭（本経ノ

十五行
平野版

〇藏器所説即
木藜蘆也

漏芦也）
莢蒿 鬼ー 油ー（是一物）〔集〕弘景所説鹿驪
根者即木藜蘆也恭所説之者真物也稱氏所充者
以馬薊似苦芺者為真也大明云似乾牛蒡者別有一種
白頭翁也）頌所説沂州者花葉皺似牡丹者別物也秦
州者花似單葉寒菊牡野蘭也人呼為老翁花者即
白頭翁也沉括夢溪筆談及飛簾李時珍所説者
今ノヲニノマユハキ保升所説者真ノ漏蘆也諸説紛
々其種類多シ大抵近世之諸医拠沉括夢溪筆談之
説以飛簾為漏芦ト又一種耳ー
飛簾（ヲニノマユハキ）葉薄ク色萌黄也黄紫ノ二種有
苧麻（カラムシ 俗名 マヲ）苧麻ヲ手ニ握ラハ其毒ニテ腫
時腫也此ニハ塩或ハ小便ニテ洗ヘバ毒始ニ消ス採薬家不
可不知〔集〕山苧 野苧（ノマヲ）
紫苧ー（一名赤苧）

国立国会図書館　タイトル『本草綱目記聞 4巻』 請求記号 特1-3386　ガラス使用

茼麻（イチビ、ゴサイバ）有二種一ハ有毛二ハ無毛本一名星火
ト云此茎ホリチニシテ夜行ニ手ツクトホセハ（星ツク）行故名
ツク　〔集〕　半磨（イシウス）莔実子（莔ハ蜀
葵之畧字）　茼麻茎（勢州カレヘムラノ俗呼テアサ
クサト云又ホリチカラト云貝原大和本草ニ所載アサクサ
此茼麻ノ無毛者乎　方書云白麻者即茼麻也）

大青（未詳）〔集〕成扶結青実云々（以透骨草充
之未詳）　一説大青サツマナデシコニ充非也此二物近来
方用希然仲景方中毎用之一医家不可不備方七十年以
前漢土ヨリ渡ル大青ハ古人似胡桃葉ト云説能合ヘリ
小青ハ全ク蓼ノ藍ニ似タリ

小青　大青ノ小者也久ク医方ニ不用故漢渡希也人多不知
之

胡蘆巴（ナンバンノ大根）　松岡曰近来此物江戸苑庭ニアリ漢
渡唯一種真也近年傳種子尤易生古来和名南蛮大根
トスルハ本草蕃国ノ蘿蔔子也ト云説ニヨツテ名ケタルナラン
是亦謬也実形色能似蘿蔔子故云又阿蘭陀セイト
ウト云草アリ花葉色如蘿蔔子莢結是謂胡蘆巴人
アリ又謬也阿蘭陀セイトウハ八種画譜ニ載タル此葉蘿
蔔ト云

蠡実　帝都藝花家呼テ曰馬藺即是也　〔釈〕蠡実馬藺
子馬楝子（此言馬藺之実也）馬帚（別物）鐵掃帚（メ
ドハギ）出救荒本草上呆白川山中ニ多シ）〔集〕頌曰即馬
帚也（此疑莧字ヲ脱スルカ）
〔附録〕必似勒（未詳）○附方　松毛（即松葉也）

悪実（ゴボウノ実）　〔釈〕蒡翁菜（根白シ）羊乃久菜（十
モミノ別名）

葈耳（ヲナモミ）一名道人頭帝都ニテメナモミト云其都
ニテヲナモミト云　〔釈〕巻耳（当剛云子ゴノミ、詩経
蘪蕪之属）稲氏云釈名所載之常思、巻耳、爵耳、

一本稲作甲

十五行

平野版

△夏蟿 即気蟿 ヘヒリムシ

耳璫、譫絲草一五岳即是巻耳之数名耳璫譫絲草者

蔓生之菜耳也

蔚耳一（別物） 譫絲草一（巻耳之一名）

集 頌所説者 即我鳥不食草也 粘糊（即豨

薟也）

天明精（イノシリノサ、ヤブタバコ）〔釈〕蚵蚾草（キツネノタバコ）（救

荒蚵蚾菜同） 螪（カイコノ未化者） 鶴虱 即天明

精実也 古児入方中俣和産之者可用也〔集〕△

豨薟（メナモミ）東武藝花家ヲナモミト云 王璆ヵ百一

撰方一名〔豨面〕地菘花〔集〕 螌（ヒリツキ虫ナリ）

豨薟葉似茄子円濶ニ而不對生茎丸有黒点実有刺能

治中風又治蛇毒〔集解〕 味葉螌 其実ハエゾイチゴ

螌ハヒリツキ虫ノサスコト

〔附録〕 類鼻草羊屎菜（共当在天明精之後属此処非也）

笹（ヤキハサ、ノマサ） 邊白竹（ヤキハサ） 朝鮮ニテ

綿草ト云野生小葦葉ノモノヲ千里草ト云

蘆（ヨシ、ヲギハ、アシ）（ヨシアシハ方言也）丸ク大ナル者ヨシ細キモノヲアシト

ス 夢渓筆談詳ニ弁ス 詩経名物弁解悉ク別アリ 別

考 〔集〕 葦（スダレヨシ イヨスダレ）ニスルヨシ也 葦亦同物也

甘蕉 芭蕉之根甘キヲ云 甘蕉芭蕉之目 名反在集

解中 〔集〕 紅蕉（即美人蕉也）

菡萏（一本作菡萏）草木ノ花ノ半開ヲ云 花𧙔（花ノ

落ルイヲ云） 微霜（白クコノフクフこ） 鐵蕉（ソテツ）

当在於甘蕉之後 一名鳳尾蕉 蘇鉄ハ俗名ニ 実名千歳

棗ニ今ヲダントクトクト云者アリ 此類之〔一〕 曇花（出草圃

春無本草

蘘荷（ミヤウガ） 楊升庵外集 文 蘘荷笋ノ一名 簡露子

〔集〕 時灌（即葵也） 甘露子（チヒキ 江戸ニテ

チヨロギト） 偖沿 草牛草（ヤブミラミ メウガ）

麻黄（カワラトクサ、イヌトクサ、ヒメトクサ） 江戸ノニテスギトクサト云

ガラス使用

特1
3386

和産為上品舶載来者附録之以雲花子為偽和ハヨク肉スキ透リテ上品ナリ唐ハ内ノツマリタルモノ交アリ是雲花子也

〔附録〕雲花子（今自漢土来麻黄多是也）

木賊（トクサ）別ニ木トクサト云テ一種アリ草也

〔別録〕問荊（即接續草ニスギナ）

石竜芻 今云タヽミヽノ表ノ豊後表ト云者（甲氏曰是即藺ニ）是也

竜常草（カレヤウノヒゲ、ジヤノヒゲ）

燈心草（井、トウシン）近江ニテコザニスル者是也

○薬用ニ皮心共ニ剉功有即效

本草綱目記聞巻之一終

特1
3386